

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 7 日現在

機関番号：22101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26463281

研究課題名(和文) 新卒看護師の社会人基礎力がバーンアウトに与える影響に関する縦断研究

研究課題名(英文) Influence of Fundamental Competencies for Working Persons on Burnout in New Graduate Nurses.

研究代表者

糸嶺 一郎 (Ito mine, Ichiro)

茨城県立医療大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：00338013

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、新卒看護師の社会人基礎力がバーンアウトに与える影響を明らかにすることを目的とした。全国の400床以上の公立病院に勤務する新卒看護師を対象に、7月のベースライン調査でコホート集団を設定し、2月までの7ヵ月間追跡した。

ベースライン調査の有効回答は1082(有効回答率72.5%)であり、7ヵ月間追跡できた有効回答は945(追跡有効回答率：87.3%)であった。重回帰分析の結果、社会人基礎力が最も強いバーンアウトの影響要因であり、社会人基礎力を向上させることでバーンアウトを抑制できる可能性があることが明らかとなった。基礎教育の段階から社会人基礎力を育成することが望まれる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to reveal the influence of fundamental competencies for working persons on burnout in new graduate nurses. The participants were new graduate nurses who worked at public hospitals (equipped with 400 or more beds) across Japan. We selected a cohort in the baseline survey conducted in July, and followed-up for seven months until February.

We received 1,082 valid responses (valid response rate: 72.5%) in the baseline survey and 945 valid responses (valid follow-up response rate: 87.3%) after the follow-up. The average score on burnout in the survey conducted in July was 11.97 (SD ± 2.28), which was significantly higher than the baseline average score ($P < 0.01$). The results of multiple regression analyses showed that fundamental competencies for working persons had the strongest effect on burnout, and that improving these competencies could inhibit burnout. It is recommended to start fostering fundamental competencies for working persons from the start of basic education.

研究分野：精神看護学

キーワード：新卒看護師 社会人基礎力 影響要因 コホート研究

1. 研究開始当初の背景

近年の看護師のバーンアウトに対する研究成果により、徐々に個人的要因、環境要因、社会的要因などが明らかにされ、職場からのデマンドと個人のリソースのアンバランスによるストレス反応としてバーンアウトという症候群が出現することがわかってきた。このような状態は職場への不適応反応と捉えることもできる。

看護師がバーンアウトに陥ると、情動の疲弊と極度の疲労の感覚、不安、怒りを覚え無力感や絶望感をもち、さらには、看護師に身体症状があらわれ、組織へのコミットメントの低下や離職・休職などを招く、そして、患者の満足度も低下するといわれている。日本では、北岡らがバーンアウトに陥る要因として仕事量、役割上の葛藤、人間関係があり、看護師がバーンアウトすると医療事故を起こしやすくなると報告している。このような結果を基にオリエンテーションや新任看護師の研修など充実がはかられてきた。しかしながら、看護師のなり手である「個人」の持っている能力との関連に関する研究は少ない。

個人が社会に適応出来るための能力の一つに社会人基礎力が注目されてきている。

社会人基礎力とは、2006年経済産業省により、社会で活躍するために必要な力として「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」と定義されたものであり、3つ下位概念「前に踏み出す力(アクション)」「考え抜く力(シンキング)」「チームで働く力(チームワーク)」の能力(12の能力要素)から成る。社会人基礎力の概念は、農業、工業、サービス業、IT企業などへのヒアリングや有識者による検討によって概念化されたものであり、社会に適応してゆくためにも必要な力である。この力を社会に出る前の教育の段階から向上させられるようなプログラムを開発すべく、200の協力大学にてPBL、インターンシップなどの教授方法を試行し、その効果を確認している。

看護系大学においても社会人基礎力の育成を視野に入れた働きかけが、まだ少数ではあるが始められており、看護職者に関してもこの力に着目し、現認教育の指標としているところもある。

このような、社会に適応するための「社会人基礎力」は、職場への不適応反応であるバーンアウトに強く影響していると考えられる。しかしながら、現段階では社会人基礎力とバーンアウトとの関連や影響を明らかにした研究はなく、また、それらの調査に必要な、社会人基礎力を測定するための妥当性と信頼性の検証された尺度も見当たらない。

そこで今回、これまでの研究を基に交絡因子を含めて検討し、新卒看護師の社会人基礎力がバーンアウトに与える影響に関する調査研究を行うこととした。

2. 研究の目的

本研究では、新卒看護師に対する社会人基礎力の尺度の信頼性と妥当性を確認した上で、社会人基礎力のバーンアウトへの影響を明らかにし、あらたな方策の検討の示唆を得ることを目的とする。

3. 研究の方法

研究1：新卒看護師の社会人基礎力に関する尺度の妥当性と信頼性の検討

北島らが学生を対象として作成した社会人基礎力尺度が新卒看護師においても適用できることを確認するための調査を実施した。1県を中心とした関東地方の一般科病院で、協力の得られた12施設(大学病院を含む)に勤務する新卒看護師311名を対象とし、2013年11月中旬から12月下旬に、看護師の属性、社会人基礎力尺度および社会的スキル尺度(KISS-18)による自記式質問紙調査を2週間の留め置き法で実施した。テスト-再テストについては、Carmines¹によるとテスト-再テストは2から4週間がよいとされるため、1回目調査後の4週間後に同様の方法で再調査を行った。妥当性の検証には、基準関連妥当性と因子分析による構成概念妥当性を実施し、信頼性の検証にはクロンバック係数の算出と再テスト法を用いた。

研究2：新卒看護師の社会人基礎力がバーンアウトに及ぼす影響

新卒看護師の社会人基礎力がバーンアウトに及ぼす影響を確認するために、全国の400床以上の公立病院に勤務する新卒看護師を対象に、7月のベースライン調査でコホート集団を設定し、2月までの7ヵ月間追跡した。ベースライン時の新卒看護師の社会人基礎力を含めた項目(文献検討とブレインストーミングにて選択)を説明変数とし、6ヵ月間追跡した対象者のバーンアウトを目的変数とするコホート研究を実施した。まず、説明変数のそれぞれとバーンアウト得点の関連を明らかにし、関連のみられた項目を選択した。その後、バーンアウトを目的変数とした重回帰分析において、先に選択された説明変数を投入し、ステップワイズ法を用いて解析した。

4. 研究成果

研究1

1回目の配布数は311票、回収数は253票(回収率81.4%)であった。このうち、社会人基礎力の尺度に欠損のあったものと社会人経験のあるものを除外し、210票の有効回答が得られた。分析においては、社会人基礎力の尺度の合計点が極端に逸脱していた4票を除いた204票(有効回答率65.6%)を対象とした。平均年齢22.1歳で、標準偏差は0.77、最低年齢は21歳で最高年齢は24歳であり、内訳は、男性15人(7.4%)、女性189人(92.6%)であった。

社会人基礎力36項目の因子分析(主因子

法、バリマックス回転)においては、因子数をスクリープロットの減衰状況と社会人基礎力の下位概念数から「3」に固定して分析した。3因子には、概ね既存の尺度と同様の質問項目で統合され、第1因子は「シンキング」、第2因子は「チームワーク」、第3因子は「アクション」と解釈できた(累積寄与率48.6%)。それぞれのクロンバックは0.90、0.90、0.85であった。またKiSS-18との相関係数も0.58($p < 0.01$)であり妥当性の高さが示された。

また、社会人基礎力尺度(36項目)全体のクロンバックは0.94であった。折半法およびテスト再テスト法の相関係数は、それぞれ0.82($p < 0.01$)、0.70($p < 0.01$)であり、信頼性の高さも示された。

これらより、新卒看護師においても、北島らの学生対象で作成された尺度の下位概念と同様の3因子が確認され、社会人基礎力尺度としての信頼性と妥当性が示唆された。

研究2

全国の公立病院で400床以上の病院(132施設)のうち、調査への協力が得られた65施設の新卒看護師1493人(回収率80.2%)で、就労経験1年未満の看護師とした。有効回答は、研究1:1082(有効回答率72.5%)、研究2:945(追跡可能有効回答率87.3%)であった。縦断調査の結果、新卒看護師のバーンアウトの影響要因は11項目あり、特に社会人基礎力($r = -0.209, P < 0.001$)、仕事を变更したい($r = 0.160, P < 0.001$)、職場に不満がある($r = 0.143, P < 0.001$)、看護技術に自信が全くない($r = 0.131, P < 0.001$)、リアリティ・ショックを感じる($r = 0.120, P < 0.001$)、職場を变更したい($r = 0.084, P < 0.01$)、先輩に相談しない($r = 0.076, P < 0.01$)などが影響していた(調整済み R^2 は0.262)。本結果においては、社会人基礎力が最も影響を及ぼしている要因であり、社会人基礎力が高いほど、バーンアウトに陥らない可能性があることが明らかとなった。また、社会人基礎力が低い者は、看護技術に自信がない、同僚や先輩に相談できない、先輩のサポートが手厚くない、人間関係を含めた職場環境が良くない、と感じている特徴があった。

新卒看護師のバーンアウトに対し、社会人基礎力が説明変数の中で最も強く影響を及ぼしており、その影響はバーンアウトに対して減少する方向で関係していたため、社会人基礎力の育成が新卒看護師のバーンアウトを抑制することが期待できる。また、社会人基礎力の研究は、実証的根拠を示したものはほとんどないため、この結果は客観的な尺度をもって確認されたことのなかった関連性であり、本研究の新規性である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文](計1件)

糸嶺一郎、高山裕子、山本貴子、松浦利江子、鈴木英子、新卒看護師の社会人基礎力に関する尺度の妥当性と信頼性の検討、日本保健福祉学会誌、査読有、22(1)、2015、23-32

[学会発表](計3件)

糸嶺一郎、高山裕子、山本貴子、松浦利江子、鈴木英子、新卒看護師の社会人基礎力に関する尺度の信頼性と妥当性の検討、第34回日本看護科学学会学術集会(愛知)、2014年11月

糸嶺一郎、鈴木英子、高山裕子、高野美香、瀬戸口ひとみ、新卒看護師の社会人基礎力とバーンアウトとの関連、国際医療福祉大学学会第6回学術大会(栃木)、2015年8月

Ichiro ITOMINE, Eiko SUZUKI, Atsuko KOBAYAMA, Yuko TAKAYAMA, Shigeko SHIBATA, Junna KUNII, The validity and reliability of the Scale of Fundamental Competencies for Working Persons in new graduate nurses in japan, 17th Pacific Rim College of Psychiatrists Scientific Meeting。(Kaohsiung)、2016・November

[図書](計0件)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]

ホームページ等
該当なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

糸嶺 一郎 (ITOMINE Ichiro)

茨城県立医療大学 看護学科 准教授

研究者番号:00338013

(2)研究分担者

鈴木 英子 (SUZUKI Eiko)

国際医療福祉大学 医療福祉学研究科
教授
研究者番号：20299879

(3)連携研究者
該当なし ()

研究者番号：

(4)研究協力者
該当なし ()